

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3, 4		
科 目 名	生徒・進路指導論				
担 当 者	田中達也, 徳永加代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	4.8	4.9	4.9	4.8	
学生へのメッセージ					
本授業の目的は、生徒指導・進路指導及びキャリア教育に関する知識や技法を学ぶだけでなく、その対象や意義、目的を深く考察する中で、学生の皆さんが対話的な講義を通して互いに学び合い、児童生徒に寄り添う支援者（教員）としての資質・能力を育成することになりました。 授業を通じて、皆さんが自らの考えを積極的に交流し、他者の視点に触れることで議論を深める姿勢が印象的でした。特に、合意形成やキャリア教育の在り方に関する議論では、一方向的な指導にとどまらず、共に学びを創り上げるという姿勢が強く感じられました。こうした過程は、単に知識を得るだけでなく、教職に必要な対人理解や協働の力を培うものとなったと考えます。 さらに、本授業での学びは、今後のキャリア形成においても重要な基盤となり得るものです。短期的な成長にとどまらず、中長期的な視野をもって自らの進路を構想し、社会人としての資質を磨いていく契機となったことでしょう。 皆さんの今後のさらなる飛躍を心より期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科指導法（小中理科）				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
4.3	4.9	4.9	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
本授業のねらいは、学習指導要領の内容を踏まえながら、学習指導案や教材の作成、さらには模擬授業の実施を通じて、理科授業を構築する上で必要な知識と技能を培うことにありました。 模擬授業では、各分野や校種に応じた工夫が随所に見られ、児童を理科学習へと引き込むための独創的な教材研究が行われていたことに感銘を受けました。また、授業を重ねるごとに模擬授業の完成度が高まり、学びが一方向ではなく受講者全体で深められていった点も大変印象的でした。模擬授業を担当する立場としてだけでなく、児童役として真摯に取り組んだことが、その質の向上につながったのだと思います。 本授業で身に付けた「児童の興味を引き出す導入の工夫」や「児童の思考の流れを踏まえた学習展開のあり方」を、今後は KIT や教育実習の場面でもぜひ自信を持って活かしていただきたいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教職論				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.8	5.0	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
教職論を受講した皆さんへ。 この授業では、子どもたちへの対応や保護者との関わり、多職種や学校同士の連携について、一緒に考えてきましたね。これから教育実習やスクールサポーターを通じて、実際の現場に触れる機会が待っています。 先生として大切なのは、 ・状況に合わせて柔軟に動くこと ・一人で抱え込まずに周りにつながることに ・先を見通して準備すること でも、こうした力はすぐに身につくものではありません。だからこそ、 「学び続けること」 「生まれつきの先生はいない」 「自分は向いていないかも…と思うくらいでちょうどいい」 そんな言葉を心の片隅に置いて、これからの大学生活を過ごしてください。皆さんが少しずつ成長していく姿を楽しみにしています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	特別支援教育				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.7	4.6	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
特別支援教育を受講した皆さんへ。 たった 8 回の授業でしたが、障害やインクルーシブの考え方、そして障害のある子どもへの理解について一緒に学んできました。授業の中で「実際に困り感を体験してみて、よくわかった」という感想もたくさんあり、とても嬉しく思っています。 障害理解や子ども理解で一番大切なのは、「自分ごと」として考えることです。自分ごととして受けとめるからこそ、子どもからの信頼や安心、愛着につながっていきます。 これから教育実習などで実際に保育や教育の現場に出て、多様な子どもたちと出会うときには、先入観にとらわれず、「自分ごと」として考えるアンテナを大事にしてください。皆さんの出会いが、子どもたちにとっても大きな意味を持つはずです。がんばってください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	社会福祉				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.1	4.0	4.0	4.4	
学生へのメッセージ					
当該科目の内容について、厳しい評価をいただいたと感じています。法制度に関する内容は大変難しいでしょう。その点を理解しやすいよう、講義の進行及び伝達方法等について、考え直します。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教科指導法（外国語）				
担 当 者	脇本聡美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
4.3	4.8	4.8	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
この授業は、小学校で「外国語活動」「外国語」を教えるために必要な知識と技術を高めることを目標にしていますが、どのくらい達成できたでしょうか。 中学年での「外国語活動」、高学年の教科「外国語」は、みなさんが生徒として受けたことのない授業です。そのような科目の模擬授業を行うことはとても難しかったと思います。それでも工夫を凝らしたり、グループで協力したりする姿を見せてくれたことはとても嬉しく思います。多くの模擬授業を抱えながら、協力し合って頑張ったと思います！					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	小学校英語				
担 当 者	脇本聡美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.7	4.8	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
この授業は、小学校で英語を授業で教えるために必要な英語運用力を磨くことと、背景的知識を身につけることでした。どのくらい達成できたでしょうか。 グループで協力して計画し、実施した模擬授業は素晴らしかったです。絵本を読み込む力も、企画をする力も、グループで協力して作り上げる力も、みなさんに備わっていることがよくわかりました。これは教員として大事な資質です。これからも大事にしてください。 一方、英語運用力向上の方はまだまだ頑張ってもら必要があります。学習の方法などでアドバイスが必要な時はいつでも研究室を訪ねてください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	情報基礎				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.6	4.7	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
演習を通じて得た知識や技術は、今後の学習や将来の専門職としての実践において欠かせないものです。そのため、学びを止めず、より高いレベルを目指して努力し続けることが求められます。実践の場で成果を発揮できるよう、今回の取り組みを振り返り、苦手な課題にも積極的に挑戦してみてください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子育て支援				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.3	4.3	4.2	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
将来、皆さんが就職する先には必ず保護者がいます。そこで保護者の悩みに応えられず、相談に乗る姿勢も欠いたままでは、信頼を得ることは到底できません。子どもの成長を共に支えるためには、保護者と真正面から向き合い、寄り添いながら確実にサポートできる知識と技術を備えていなければなりません。今回の演習で行ったディスカッションや発表を「やっただけ」で終わらせるのであれば、現場では全く通用しないでしょう。学んだことを現実に活かせる力へと変えられるかどうかは、皆さん自身の本気度にかかっています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	乳児保育Ⅰ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.0	4.0	3.9	4.1	
学生へのメッセージ					
回答数は少なかったものの、回答してくれた学生の多くは、授業におおむね満足している様子でした。授業では座席を指定していたため、静かな環境の中で学習できたのではないかと思います。一方で、授業中にスマートフォンを使って友人同士で連絡を取り合っているような行動が見られた学生がいたことは残念でした。現場での体験談なども交えながら授業を進めていたため、保育への意識が高い学生は、しっかりと受講してくれていたのではないかと感じています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	保育実習指導Ⅱ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.0	4.5	4.4	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
実習指導の日程が変則的であったにもかかわらず、出席率が高く、さすがは4年生だと感心しました。実習を通してしっかりと学びを積み重ねてきた学生は、一部の学生を除き、授業の意図を理解し、的確な発表を行っていたように思います。一方で、アンケートの自由記述の中に、「私が学生を平等に評価していない」とする意見がありました。しかしながら、この授業の中では評価を行う場面はありませんでした。また、アンケート回答時点でも評価は未提出の段階でした。そのような見方は、事実とは異なる印象によるものと思われます。そうした受け止め方は、授業のねらいや仕組みを十分に理解できていないことの表れとも考えられ、少々うがった見方をしているように感じられました。学びを深める姿勢や物事を多面的に捉える視点が今後さらに育っていくことを願っており、社会に出てからも冷静かつ公正な判断力を養ってほしいと感じています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教育方法・情報通信技術活用論				
担 当 者	光成 研一郎				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.2	4.2	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
まずは、全員合格おめでとう！（笑） 受講生全員が私の授業に合格したことは、私が入職以来初めてです。よほど私の授業を再履修したくなかったのでしょう。 「今年初めて、学生 G による発表を授業で行いましたが、それなりの発表をしてくれて、中には熱心に取り組んだんだな！」と思わせてくれる G の発表もありました。皆さんのこれまでの成長が見れて嬉しかったです。 記述欄の改善点として、発表のとき「あと何人、何 G」と私が急かしたのが嫌だった、という記述がありました。少し意味がわからないので、また伝えに来てください。残りの学生生活悔いのないように！					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科		学 年	1	
科 目 名	保育原理				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.0	4.0	3.9	4.1	
学生へのメッセージ					
本科目は保育に関する基本的な内容を教授するもので、授業の前半では、保育に関する法的根拠や保育制度、近年の保育に関する社会問題などを取り上げました。また、後半は具体的な 子どもの発達や保育内容、保育者の援助方法や環境構成の在り方について等、多くの教授内容を概論的に理解できるよう、子どもの成長が感じられる感動的な動画を用いて説明するなどの工夫を行いました。 受講生の皆さんが授業を通して、乳幼児期の保育・教育を理解し、その重要性を深く認識していただきたいと思い授業を行いました。多くの授業内容を詰め込むような感じで講義したことから、「授業スピードが速い」や「内容が理解しにくい」という意見があったので、今後の反省点です。 また、本科目は卒業必修科目であり、受講者は1年生全員で、保育・幼児教育を目指している方と義務教育を目指している方の両方が受講されています。自由記述から「小学校教諭を目指す学生にとっても学ぶ意義を見出せる授業展開だった」との意見があり、保幼コースではない学生も意欲をもって取り組んでくれたことが分かり、嬉しく感じました。他にも自由記述で講義を聞いて、「保育者になりたいと強く思うようになった」との意見があったことも大変嬉しいことでした。 乳幼児期の保育・教育は子どもの生きる力の土台を形成する、非常に重要なものです。保育者・教育者を目指す全ての方に関心をもって理解していただきたいと思います。そのため、受講生の意見も取り入れながら、より分かりやすく、関心がもてるような教授方法を模索し、授業改善していきたいと考えています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育指導法 AB				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
本授業はグループごとに保育の教材研究・指導計画立案・模擬保育・事後反省会を行い、より実践的な内容で取り組みました。受講生は非常に熱心に授業に取り組んでくれたと感じています。保育者役、子ども役、観察者と様々な形態で毎回の授業に参加し、よりよい環境構成の在り方や子どもの発達に応じた教材の提供の仕方、子どもが集中して話が聞けるような話し方や適切な言葉、共感的かわりと多くのことを学ばれたと思います。特に事後反省会では保育の内容をよく考察し、しっかりと振り返りや討議ができていたと感じ、保育の見方考え方を深められたのではないかと思います。授業ではグループ単位での模擬保育でしたが実際の実習では、一人で行うことが基本です。授業の経験を基に一人一人十分努力し、実習で活かしていただきたいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どもの表現文化				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.9	4.8	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
子どもの心や言葉を育てる絵本を中心に子どもの表現文化に関する教材や児童文化財について演習を行いました。本授業は 4 年生配当の選択科目であり、受講生は 4 名と少ない授業でした。そのため、ゼミ形式で自己が設定したテーマに基づく絵本研究と発表、その後に発表者のテーマに関する哲学対話を取り入れ、相互に考えを表明し、対話を通して絵本の神髄について考察することができました。また、いわさきちひろ氏、さとうわきこ氏の絵本展を鑑賞し、絵本作家の感性や創作力から学びを得たり、こども本の森神戸で絵本の閲覧を通して、様々なジャンルの絵本の魅力についても考察したりできました。皆さん意欲的に授業に取り組み、活発な対話を通して、子どもだけでなく、大人にとっても価値ある文化財として絵本を理解し、絵本の楽しみ方を学んだことと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教育実習指導（幼稚園）				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
4.2	4.6	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
本授業は幼稚園教育実習の事前指導を中心に、部分実習・全日実習などの指導案の立案、作成、模擬保育と実習記録の書き方など具体的で実践的な内容で授業を進めました。また、実習での自己課題を明確にし、しっかりとした目標をもって実習に臨めるよう授業を行いました。皆さん熱心に授業に取り組み、基本的な知識や技術を身につけることができましたと思います。しかし、実習では大学で想定していたこととは大きく異なることも出てきます。幼稚園実習を通して、子どもや保育者とかかわりながら、より良い方法を考え臨機応変に対応し、保育者としての資質・能力を身に付けられるよう努力して欲しいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	体育				
担 当 者	近藤みづき・柳本太三				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.7	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
アンケートへの回答ありがとうございました。授業評価結果から、皆さんが満足する授業が展開できたと思います。 この授業は、皆さんに目の前のこどもに対して、動きの問題点を見抜き、どのように教えるかを考える等、運動指導力の基盤を習得することを目的に実施しました。そのためには、単に体を動かすだけでなく、将来教師や保育者になる人として、各種運動の意味や特性を理解したうえで実技に取り組むこと、さらに、理解したことを振り返り、他者に伝えることを期待しました。皆さんには、授業で行ったことを振り返り、実習時や教員や保育士になった時に使えるように、今後自分自身で学習を深めてもらいたいと考えています。 自由記述から「高校の体育とは違い、教育者目線の体育をすることができた」や「運動が苦手な生徒でも取り組みやすい授業内容になっているのがよかった。」「実践的な授業が多くとても学びが深められた。」などの意見がある一方で、「体育館が暑い。」という意見もありました。体育館の暑さについては、大学側に要求するとともに、冷却方法を今後検討したいと思います。 最後に、授業の欠席やレポートの提出忘れは残念でした。今後の学生生活の中で改善を心掛けてほしいと思います。(近藤) 体育の授業において、みなさんは子どもの立場になって実際に活動するとともに、指導者としての指導方法や支援方法、そして大切にすることを学んだことと思います。どの授業にも、一生懸命に取り組んでいた姿勢がとてもよかったと思います。(柳本)					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教育の思想と歴史				
担 当 者	京極重智				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.1	4.2	4.5	3.9	4.2	
学生へのメッセージ					
今回、新たな試みとして「哲学対話」と呼ばれる参加者の主体的な議論や対話を行う授業方法を混ぜながら授業を行いました。「教育の思想と歴史」という授業は、座学で行う受け身の講義になりがちな内容になるため、少しでも受講者と学びを作るという意図をもって、この授業方法を採用しました。 「学生による授業評価」では、「授業方法」の項目が平均以上となり、哲学対話という授業方法を新たに導入した一定の効果は見られたと考えます。他方、「学生自身」の意欲面、「学修成果」の内容理解や学びに向かう姿勢などは、平均以下となり改善の余地があると考えられます。 次年度では、「哲学対話」を増やしつつ、わかりやすい内容、事前学修・事後学修の厚みを増すために、「反転授業」の手法を取り入れようと計画しています。反転授業では、講義部分の学びが学生の主体性にゆだねられてしまうため、いかにわかりやすく、面白い内容を組み立てられるかが勝負になるかと思っています。みなさんの評価を次年度以降の改善につなげていきます。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	理科実験Ⅱ				
担 当 者	松元英理子、日尾泰也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.6	4.4	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
【化学分野（日尾）】 授業評価ありがとうございました。 ハイレベルな実験でなく、既習内容であっても実際に小・中学校で授業を担当する際に役立つような授業となるように進めてきました。限られた時間でしたが、少しでも今後に生かしてもらうことを期待しています。 【生物分野（松元）】 お疲れさまでした。 開講初年度の実習科目で、皆さんが実験を終えるのにどのくらい時間がかかるのか、どの程度理解していただけるのか、予測がつかないまま駆け抜けた感があります。 最初に説明した通り、実習科目が少ないカリキュラムの中で「実験の経験値をあげる」ことを一つの目標としました。そのために多くの実験項目を用意しました。この点は好意的に評価していただきましたが、逆に、時間配分・説明の理解度・重要な技術の習得度などに改善の余地がありそうです。特に、説明の長さについては複数の方から改善策も含むコメントをいただきました。次年度は何らかの対策を取ろうと思います。ありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	教育と情報				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.2	4.4	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
今年度も「教育と情報」の授業に真剣に取り組んでいただき、ありがとうございました。授業評価のコメントや結果を拝見し、教材や授業の進め方が皆さんの理解や興味につながったことを嬉しく思います。とくにグループワークやデジタル教材体験を通して、主体的に学ばれていた姿勢が印象的でした。 さて、昨今は生成 AI の進展が社会に大きな影響を与えています。授業中に何度か紹介したように、文章や画像、動画さえも AI がつくり出す時代において、教育現場でも「どう活用するか」「どこに人間ならではの力を発揮するか」が問われています。皆さんが授業で学んだ「得られた情報を冷静に受け止め、その信憑性を自身がしっかりと確かめること」や「異なる考えをもつメンバーが協働して考えを深める経験」は、まさに AI 時代を生き抜くために不可欠な基盤です。 教育・保育・福祉、そして一般社会へと羽ばたいていく皆さんには、技術の進歩をただ受け身で利用するのではなく、「人と人との関わりを大切にしながら、AI や新しいツールを活かす」姿勢を持ち続けてほしいと思います。 未来は不確実性に満ちていますが、今回の授業で得た知識や経験を糧に、自信をもって次のステージへ進んでください。皆さんのこれからの活躍を、心から期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（環境）				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.4	4.5	4.6	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
今年の夏は記録的な暑さとなり、日常生活や体調管理にも大きな影響がありました。こうした環境の変化は、まさに「不確実な社会」を象徴しています。だからこそ、健康に気を配りながら、学生生活を大いに楽しんでほしいと思います。 本授業では、ほとんどの回で振り返りレポートを課しました。ひとりひとりの記述を読む中で、過去の先輩たちと同様に「学びの深まり」を実感できました。多くの皆さんが非常に真剣に考えを巡らせていることが伝わり、嬉しく思っています。今年度も、それらの振り返りを AI で分析し、フィードバックに活用しました。皆さんにとって、その結果はどのように映ったのでしょうか？ さらに、相互閲覧形式でのコメント交流も取り入れました。単なる賛辞にとどまらず、意味を深く読み取り合うコメントが数多く見られ、manaba 上に一種の「学びの共同体」が生まれていたと感じています。これは、対面型のやり取りでは得にくい経験であり、デジタル環境が新しい学びの可能性を拓いた好例だと思います。 授業で得られた知識や姿勢は、現場での保育実践においてその質を大きく左右します。皆さんの中に大切な部分がしっかりと定着していることを願っています。また、この授業と対をなす「子どもと環境」が 4 年生後期に控えています。2 年後、再び領域「環境」をテーマに皆さんと学び合えることを楽しみにしています。その際には、今回伝えきれなかった内容を一緒に掘り下げていきましょう。 未来は AI の進展をはじめ不確実な変化が続きますが、人と人の関わりを大切にしながら、柔軟に学びを活かしてってください。皆さんのこれからの成長と活躍を心から期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	カウンセリングの技法				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.7	4.3	4.2	4.2	4.4	
学生へのメッセージ					
授業の後半ではお互いに話を聞く、聞いてもらう、といった演習をしていましたが、グループの中には楽しそうに話を進めていたり、どうしようかと困った表情を浮かべて進めていたりする方もいらっしゃいました。 この授業はカウンセリングにおけるさまざまなテクニックを紹介するものでしたが、同時にピアヘルパー資格試験の中心的科目となることもあり、カウンセリングの中でもピアヘルパーという領域に特化した内容でもあります。ピアヘルパーに特化したという点では、他の授業ではあまり扱わない内容も多くありました。資格試験の受験を念頭にもおいているために、数多くの専門用語の理解も必要とされます。 みなさんは資格試験に興味を持たれましたか？資格試験を受験しない方にとっても、今後の教育・保育の現場で子どもたちの話、保護者の話、同僚の話などさまざまな場面で思い出して活用していただきたいと思います。 12 月にはピアヘルパー資格試験を実施します。10 月末くらいには試験の申し込みを受け付けますので、興味のある方は是非受験を検討してくださいね。そして、各自で定期的に復習をしておいてください。 ご意見をいただきありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	発達心理学				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
0.0	3.8	3.8	3.8	3.7	
学生へのメッセージ					
保育士資格選択必修科目でしたが、保育の心理学とは異なり、青年期からの発達を扱う科目であるため、授業を受けるみなさんにとっては、近い過去の自分の発達を振り返り、さらに将来のこともイメージしていくことを期待していました。身近に考えることのできる内容が多く出てきたと思います。特に、アイデンティティは今後の進路選択を考える上でも、自分を見つめなおす機会として、青年期以降の卒業後の人生でも考え続けてほしい内容です。時折思い出してみてください。 保育の心理学と同時期開講ということもあり、評価方法を変えていました。この科目はシラバスでお伝えしているように、毎回の提出物の割合が多い科目としていましたので、出席していても、提出がないことで点数が伸びなかった方もいらっしゃいました。 また、自由記述では私が威圧的で上からものを言われている感じがしたというご指摘もいただきました。同時期開講の保育の心理学でも同じ指摘がありました。そのようなつもりはなかったのですが、複数の方がそのように思われていたとのことですみませんでした。今後は気をつけたいと思います。 いろいろなご意見をいただきありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育の心理学				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.0	4.0	4.0	4.0	
学生へのメッセージ					
この科目は科目名に「保育」とあるように、発達を扱う心理学の中でも乳幼児期の発達に重点をおく形で開講しているものです。また、この科目以外で私が担当している1年後期に開講した教育心理学、同じ3年前期に開講している発達心理学の2科目と調整して、できるだけ同じ内容が重複しないようにしています。そのような意味では、単独の科目ではありますが、教育心理学やその他これまでに学んだことを踏まえて、保育の心理学も学ばれたと思いますので、また今後の科目にも生かしていただければと思います。 また、自由記述では私が威圧的で上からものを言われている感じがしたというご指摘もいただきました。同時期開講の発達心理学でも同じ指摘がありました。そのようなつもりはなかったのですが、複数の方がそのような思われていたとのことですみませんでした。今後は気をつけたいと思います。 いろいろなご意見をいただきありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（健康）				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
3.8	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
この授業では、前半は「乳幼児の心と体の健康」について学びました。年齢ごとの発達を映像と解説から確認し、提出された『授業ファイル』からも、『こんなときどうする？ どんな気づきがあった？』ノートを活用し、詳細にメモをとっている学生が数多く居ました。主体的に学びに取り組んでいた姿がうかがえました。これまで乳児や就学前の子どもに直接関わる機会が少なかったみなさんにとって、発達や発育を具体的に理解するよい機会になったと思います。 後半の「健康な心と体を育む保育の実際」では、運動あそびの模擬保育を実施しました。グループで指導案を考え、準備や練習を経て先生役・子ども役を経験する中で、「初めて指導案を考えて模擬保育をし、楽しかった」「保育者になるイメージが持てた」「仲間と楽しく関わりながら保育に対する考えを深められた」との声が自由記述にありました。実践を通して楽しみながら学びを深めている姿は、とても頼もしく感じられました。 指導計画や実践の工夫、授業中の協働的な姿勢も評価できる点でした。模擬保育では、まず自分が楽しむことが子どもの楽しさにつながります。みなさんがその実感を得られたことは大きな収穫です。今後は、ワークシートの記述をさらに丁寧に行い、実習や現場で活かせる実践力を積み重ねてください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どもと健康				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.8	3.8	3.8	4.1	3.8	
学生へのメッセージ					
今年度の授業評価では、昨年度のほぼ4.8に比較し、全体的に評価が低く(3.8)、例年に比べて満足度が下がったことがうかがえました。原因として、授業方法として取り入れている、乱数表によるグループ編成で課題に取り組むという方法にあったようです。自由なグループ編成と異なり、A・Bクラス混合でのランダム編成は、例年「さまざまな人の意見を聴ける」等、学修成果も高く好評なのですが、本年度の学年はA・Bクラスの交流の少なさ等が背景にあり、状況が異なったようです。それでも自由記述からは、「グループワークが良かった」「乱数表によるグループ編成で、今まで話したことのない人と関わるきっかけになった」「自分では思いつかない意見を聞けて良かった」という前向きな声が複数寄せられ、活動を通して新たな気づきや交流の広がりを得られたことがわかります。 一方で、「グループ活動で一部に負担が偏り、不公平さを感じた」という指摘もありました。確かにグループワークでは、役割分担や協力の度合いに差が出る場合があります。今後は、作業工程を可視化し、役割分担をより明確にする工夫を授業運営に取り入れたいと思います。みなさん自身も、互いの得意や苦手を理解し合いながら、協力して取り組む姿勢を大切にしてください。 この授業は、4年間の学びを総合し、現代の子どもの健康課題を具体的に考える最後の機会でした。現場に出れば、仲間と協力しながら課題解決に取り組む場面は必ず訪れます。今回の経験を通して「多様な意見に耳を傾け、他者と協働して課題に向き合う」力を培えたことは、大きな成果です。卒業後は、それぞれの現場でこの力を発揮し、子どもの健康を守り育む専門職として成長していかれることを期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	音楽ⅠAB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	
学生へのメッセージ					
大学生になって初めてピアノに触れた方も多かったと思いますが、皆さんは欠席回数も少なく、毎回の課題にしっかりと向き合ってよく頑張られました。この半年間で、楽譜を読む力やピアノを弾く技術、また発声の仕方が身に付いてきたと自覚されている方もおられることでしょう。そして、何よりも練習が大切だということをわかってもらえたと思います。 夏休み明けには音楽Ⅱが待っています。また新しいことにもチャレンジしてもらいますので、夏休み中も時間を見つけてピアノに触れてくださいね。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	音楽ⅢAB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.6	4.6	4.6	4.8	
学生へのメッセージ					
今年度は、1 人当たりのレッスン時間を割と長く確保することが出来ましたので、皆さんしっかりレッスンを受けられたのではないかと思います。 これから先、実習や就職試験、更には現場に出た時など、ピアノが必要になる場面が沢山あるでしょう。その時に困らないよう、ここまで積み上げてきたピアノの力をキープし、更に伸ばすために時間を見つけてピアノに向かってください。 弾き歌いをする時には、周りに子どもたちがいると想像し、笑顔で演奏できるようになるのが理想です。そして、子どもたちと音楽でコミュニケーションが取れるような先生になってもらえたらとても嬉しいです。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	多文化理解教育論				
担 当 者	松井洋子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.5	4.5	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
皆さんに馴染みのない科目名だったかもしれませんが、今保育や教育の現場にはほぼ確実に「外国ルーツの子どもたち」がいます。そんな子供たちを前に、指導者として何を考えるべきか、の基礎をこの講座で学びました。教育現場での課題、その対応、宗教上の食事の制約等も知ったし、世界の人と接するための世界の共通課題（Global Issue）も学んで、視点も広がりましたし、外から日本を見直すこともできました。 皆さんが実際に現場でも使えるよう、配布資料には、多文化の情報、教育現場ですぐ使える各国語の動画が豊富なサイト情報も記載してあります。今後も活用してください。 多様な文化の人たちが共に生きる社会。今後も試行錯誤が続きます。皆さんも教育の現場で試行錯誤し、学び続けてください。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容(言葉)				
担 当 者	多田琴子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.4	4.4	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
・「この授業でよいと思った点」に5人からコメントをもらいました。 要約すると5点ありました。 ① 読んだことのない絵本紹介があり面白い絵本に触れることができた。 ② グループで絵本のねらいについて共有したのが楽しかった。 ③ 知らない手遊びができて楽しかった。 ④ 保育者の経験として困ったことや子どもが喜ぶことを聞けて良かった。 ⑤ 学生の意見を大切にしていた。 このことから、次年度も提示する絵本や手遊びエピソード等、厳選して授業準備をしたいと思 います。ちなみに改善点はありませんでした。 ・保育内容「言葉」で繰り返し伝えたように、子ども前に立つ保育者の「言葉遣い」は言葉を 獲得する時期、国語を学習する前の段階で大変重要です。言葉遣いは身についているもので すから、改まった場所に出てすぐにその場に相応しい言葉遣いをするのは困難です。実習や就 職に向けて、日常生活の中で緩やかに「丁寧語」で「温かい言葉遣い」をするように心がけて ほしいです。丁寧語や温かい言葉は使用する自分自身の人格形成をも担うものと私は考えます。 ・午後からの授業で、睡魔と戦う!睡魔に負けてしまう!皆さんの前で授業するのは、私にとって モチベーションを保つのに努力がいる時間でした。 ・後期は保育指導法の「子どもと言葉」で会いましょう。前期とは異なり、課題が多く授業外 時間での学修時間が多くなりますが、作成した児童文化財を使いグループでかつり模擬保育 もいたします。では後期の出会いを楽しみに。「ごきげんよう」					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと造形表現 A				
担 当 者	山成昭世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
学生へのメッセージ					
積極的に参加している。多くの技法、材料に触れて体験する事が造形意欲を高めると考えているので今後の授業でも生かしたい。前年から進行が速くてしんどかったとの記述があったため、今年度は時間にゆとりを持たせた。学生の振り返りの時間になったと考える。各自がポートフォリオにまとめたため、成果が可視化されている。満足度が高く、今後も今年度を参考にして授業計画したい。1つ1つの課題に丁寧に向き合っていました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2	
科 目 名	子どもと造形表現B			
担 当 者	山成昭世			
カテゴリー別授業評価調査結果				
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)
学生へのメッセージ				
概ね積極的に参加している。多くの技法、材料に触れて体験することが造形意欲を高めてると考えるので今後の授業でも生かしたい。一つの課題に余裕を持たせた。学生の振り返りの時間となった。ポートフォリオが可視化された成果の確認になっている。概ね満足度が高い。一つ一つの課題に丁寧に熱心に向き合っていました。				

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの保健				
担 当 者	石原二三代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.2	4.5	4.5	4.3	4.5	
学生へのメッセージ					
今回の授業評価にご協力いただき、ありがとうございました。授業内容や方法について高く評価していただき、大変うれしく思います。皆さんが真剣に学びに取り組んでくれたおかげで、私自身も授業を充実させることができました。 一方で、『自分自身の学び』に関しては、まだ伸びしろがあると感じています。学んだことを自分の生活や将来の保育現場にどう生かすかを意識して取り組むことで、さらに成果が高まるはずです。 子どもの命と健康を守る学びは、保育士として欠かすことのできない大切な基盤です。皆さんが授業を通じてやる気を持ち、学びを深めてくれたことを大変頼もしく思います。今後も皆さん一人ひとりの成長を応援しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの食と栄養Ⅰ				
担 当 者	進藤 容子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.4	4.3	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
前期はお疲れさまでした。学びの環境をよくしていこうという学生の皆さんの協力もあり、無事授業を終えることができました。調理実習での実体験が大切だということを、皆さんの自由記述からも確認できましたので、今後も続けて行けたらと思います。また、板書についてのご指摘（暗いままだと見えづらい）もありがとうございました。細かなところも気を付けながら、学修環境を整え、学修効果を高められるようにしていきたいと思います。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	E336001 生活				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.6	4.8	4.6	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
小学校入学時の軸になる生活科の授業は、この後の探究的な学びの基礎になる力を育みます。将来の自分の姿をイメージして 後期の模擬授業で実践力をつけてください。期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	e337501 教科教育法（家庭）				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ （学生自身）	カテゴリーⅡ （授業内容）	カテゴリーⅢ （授業方法）	カテゴリーⅣ （学修成果）	カテゴリーⅤ （総合評価）	
4.2	4.8	4.8	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
生活科と家庭科の2教科を通して 2年間関わることができました。この間、皆さんの成長を色々な場面で見ることができました。仲間がいたからこそ 学びが深まったことが多かったのではないのでしょうか。家庭科の模擬授業や、作成した指導案や振り返りシート、アドバイスシートの内容は工夫され、充実していたと感じています。この学びを活かして、皆さんが今後活躍されることを期待しています。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	障害児の理解と支援Ⅰ				
担 当 者	川島直子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.7	4.8	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
高評価をいただき感謝申し上げます。 皆さんが意欲的に授業を受けてくださったこと、大変嬉しく思っております。 グループワークでの事例検討では、難しい内容もあったかと思いますが、きちんと話し合いながら答えを考えていることは、大変素晴らしいと思いました。 今後、必ず障害のある子どもと関わると思います。 その時に本授業で学んだことを活かしていただけたら嬉しいです。 短い間でしたが、大変楽しい授業でした。 ありがとうございました。					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	社会的養護Ⅰ				
担 当 者	川島直子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.4	4.6	4.7	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
食後の３限の授業で、睡魔と闘う場面もあったかと思いますが、皆さん集中してよく頑張っておられました。また、書く内容も多かったですが、とても意欲的に取り組まれていたことは大変嬉しく思います。 この授業で学んだことを、後期の社会的養護Ⅱも活かし、また施設実習でも活かしていただけたら嬉しいです。 短い間でしたが、ありがとうございました。					